

施策項目 2 7 生涯学習の振興

【評価結果】

【担当課：社会教育課】



担当課HP

総合評価	進展あり
-------------	-------------

定量評価 [指標]	C	指標	評点	(a)	(b)	(c)	(d)
			0	0	0	1	1
			d 評価となった指標 ①				

定性評価 [施策]	進展あり
<p>「生涯にわたる学習活動の促進」について、道民カレッジ生の講座履修履歴、単位数の管理、称号付などを電子化したことにより、道民カレッジ生の利便性の向上、道民カレッジ生が自ら受講した講座に対して、広く単位認定できるようにするなど、道民カレッジ生の利便性の向上と「学ぶ」意欲を向上させる取組を推進することができた。「地域の実態に即した学習環境づくり」については、全ての主催事業をオンライン開催したこと及び社会教育主事講習への参加者を増やしたことで、地域づくりにつながる生涯学習を推進する人材の育成を推し進めることができた。</p>	

【施策の推進状況】

【P】・・・「Plan 令和4年度の主な施策」 【D】・・・「Do 主な取組の状況」
 【C】・・・「Check 施策の課題」 【A】・・・「Action 今後の方向」

《課題・背景》	<p>(1) 生涯にわたる学習活動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本道の広域分散型の地域性や情報化社会の進展など時代の変化に対応しながら、道教委として、全道規模で学習機会を提供するための取組を進めていくことが必要 ・道民が主体的な学びを通して自己の人生を豊かにするとともに、学習の成果を人づくりや地域づくりに生かすための仕組みづくりの支援が必要 <p>(2) 地域の実態に即した学習環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村の地域づくりにつながる生涯学習を推進する人材の育成が必要 ・市町村における生涯学習推進施策の立案に向けた支援が必要 ・道民の生涯学習は、スポーツや趣味的なものとは比べ地域の良さに触れる機会や課題を学ぶものが少ない現状にある。また、学んだ成果をまちづくりやボランティア、子どもたちを育むための活動に生かしている道民の割合は6割程度
---------	---

(1) 生涯にわたる学習活動の促進	<p>① 道民の生涯学習のより一層の振興と、自立した北海道を創造する人材の育成を図る道民カレッジ事業について、現代的課題を踏まえて道民の学習ニーズを分析し、講座等を設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道民カレッジ事業で取り扱う学習コンテンツや、申込み、受講、評価といった運営基盤のICT化による利便性の向上 <p>② 学習の成果を人づくりや地域づくりに生かす取組を行っている地域の実践について、その取組成果を分析し報告書としてまとめ、道内市町村に普及</p>	[D]
[P]	<p>① 高齢者のデジタルデハイド解消のため、「多様な学習機会の提供」として、広域分散型の本道の地域構造を踏まえながら、ICTを活用したデジタルリテラシー向上をテーマとして講座等を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係各課と連携しながら、義務教育未修了者等の学び直しに係る学習内容を引き続き検討するとともに、不登校児童生徒へのICTを活用した学習プログラムや夜間中学の授業内容の配信などの学習支援の試行実施 <p>② 各地域の取組結果を分析して報告書にまとめるとともに、住民主体の多様な取組の展開につなげるため、活動の構想から評価に至るプロセスを分析したモデル事業を具体的に提示</p>	[C]

(2) 地域の実態に即した学習環境づくり	<p>① 生涯学習関係職員等を対象とした研修の充実を図るなどとして、関係職員の資質の向上及び指導者の養成</p> <p>② 新たな地域づくりを進めるための効果的なプロセス・手法を導き出す実践的な調査・研究を行い、その課程と成果をモデル事業として発信</p> <p>③ 生涯学習に関する道内の現状を把握する調査を実施。生涯学習施策の先行先となる市町村へ情報提供を実施</p> <p>④ 生涯学習に取り組む道民の割合がさらに高まるよう、生涯学習審議会等での推進方策を検討し、その結果を事業に反映</p>	[D]
[P]	<p>① 「社会教育主事講習」(A及びB両日程延134名受講)、「スキルアップ研修会」(11月25日実施 48名参加)、「地域生涯学習活動実践交流セミナー」(2月9日～2月10日実施 221名参加)の開催</p> <p>② 事業対象者が地域住民や塾長と地域について学ぶワークショップを教育課程上に位置付け実施するとともに、多世代交流の場として「高校生カフェ」を実施(6月19日、10月22日)</p> <p>③ 道内市町村における生涯学習推進体制の整備状況や地域の課題解決を目指す取組についての実態把握のための調査を実施(9月12日～10月31日)</p> <p>④ 生涯学習審議会センター部会を4回開催(5月26日、7月29日、10月28日、2月24日)</p>	[C]
[A]	<p>① 専門的知識・技術を持った社会教育行政職員の育成を推進するため「社会教育主事」「社会教育士」の資格を付与する「社会教育主事講習」の受講促進を教育局教育支援課長会議などを通じて働き掛け</p> <p>② モデル事業の成果や課題をまとめた調査研究報告書の発行、地域生涯学習活動実践交流セミナーでの成果発表による各市町村への波及</p> <p>③ 引き続き令和4年度と同時期(11月～12月)に調査を実施し、結果を公表するとともに、生涯学習の振興施策の評価・検証へ結果を活用</p> <p>④ 生涯学習審議会センター部会で協議したデジタルデハイド解消に向けた取組を、道民カレッジ事業で提供する主催講座として実施するとともに、今後も引き続き主催事業の反映につながる協議を継続</p>	[C]

[指標の状況及び評価]

指標の内容	基準値	目標値(上段)						進捗率	評価	出典 (調査名等)	実施 主体	調査期 日又は 調査対 象期間	指標の 対象
		実績値(下段)											
		(H29)	(H30)	(R元)	(R2)	(R3)	(R4)						
① 「自分のいる地域で、自ら学習に取り組もうとする人が多いと感じている」と回答した割合(%)	(H28)		38.0	42.0	44.5	47.0	50.0	68.0%	d	生涯学習に関する道民の意識調査	道教委	R4.11~ R4.12	一般道民
	32.0	32.0	30.7	32.2	31.6	31.6	34.0						
② 「生涯学習を行った人のうち、「身につけた知識、技術や経験をまちづくりやボランティア、子どもたちを育むための活動などに生かしている」と回答した割合(%)	(H28)		63.8	65.0	67.5	70.0	72.5	82.1%	c	生涯学習に関する住民の意識調査	道教委	R4.11~ R4.12	一般道民
	58.6	61.7	58.3	59.8	57.3	57.3	59.5						
③ 道民カレッジの主催講座・連携講座の受講者数(人)	(H28)		140,000	148,000	156,000	165,000	174,000	-	-	道立生涯学習推進センター業務委託実績報告書	道教委	※令和4年度連携講座の廃止のためデータなし	道民カレッジ受講者
	101,009	133,415	132,245	134,152	107,154	69,138	-						
評価結果	(a) 指標数	(b) 指標数	(c) 指標数	(d) 指標数	定量評価		C						
	0	0	1	1									
新型コロナウイルス感染症の影響により実績値が伸びなかった指標又は低下した指標に対する今後の取組	②③ 生涯学習に取り組む道民の主体的な活動を促進するためには、生涯学習関係職員等を対象とした研修の充実や指導者の養成が重要であることから、北海道の広域性への対応はもとより、感染症への対応を踏まえ、指導者の養成・研修をオンラインにより実施するなど、ICTの効果的な活用による研修体制の整備												
d評価に対する今後の取組	① 住民の主体的な取組を促進するため、地域住民や団体をコーディネートする能力などを育成し、住民が地域課題に取り組むことを後押しする役割を担う、指導者の養成を実施												